

クイック・スタート・ガイド

IBM MessageSight を使い始める前に、本ガイドをお読みください。

製品の概要

IBM® MessageSight™ は、アプライアンス・ベースのメッセージング・サーバーです。接続された多数のクライアントおよびデバイスを扱い、一定の待ち時間で大量のメッセージを処理するのに最適なサーバーです。インターネットの最先端の製品として、IBM MessageSight は、モバイル、Internet of Things (モノのインターネット) といった新しいユース・ケースに対応できるように、ユーザーとデバイス、オブジェクトをつなげることによって既存のインフラストラクチャーを理想的に拡張します。IBM MessageSight は、次世代アプリケーションのスタンドアロン・サーバーとしても使用できます。これまでにないレベルの拡張性を備えた IBM MessageSight は、分析エンジンや、ビッグデータを扱うその他のアプリケーションに大量のデータを送信するために、まさに理想的なサーバーです。

1 ステップ 1: インストール前のチェックリスト



本製品は、背面に複数のネットワーク・ポートを備えています。通常は、少なくとも、Web ユーザー・インターフェースまたはリモート・コマンド行インターフェースに接続するために使用される管理ポート (**mgmt0**) と、メッセージング・クライアントが接続する標準ポート (**eth0**) の 2 つのポートを構成する必要があります。これらのポートには、固定 IP アドレスを割り当てることをお勧めします。

ネットワーク管理者は、製品上のこの 2 つのポート用に、スイッチ上のポートと特定の IP アドレスを割り当てる必要があります。以下の情報を管理者から取得してください。

1. **mgmt0** 用の IP アドレス
(クラスレス・ドメイン間ルーティング (CIDR) 形式。たとえば、192.168.1.1/24)
2. **mgmt0** 用のゲートウェイ IP アドレス (CIDR サフィックスなし。たとえば、192.168.1.0)
3. **eth0** 用の IP アドレス (CIDR 形式。たとえば、9.14.1.1/24)
4. **eth0** 用のゲートウェイ IP アドレス (CIDR サフィックスなし。たとえば、9.14.1.0)

以下も必要です。

- イーサネット・ケーブル 2 本。
- USB ケーブル付きのキーボード。
- VGA ケーブル付きのモニター。
- 管理ポートと同じネットワーク上にある、サポートされるブラウザを備えたコンピューターへのアクセス。

ヒント: サポートされているブラウザの一覧は、IBM MessageSight インフォメーション・センターの Supported web browsers by platform を参照してください。

情報と装置が揃ったら、セットアップを開始することができます。

2 ステップ 2: ハードウェアのセットアップ



1. 本製品を解梱します。
2. 本製品を設置します。
 - a. ラックに本製品を取り付けます。
 - b. イーサネット・ケーブルで管理ポート (本製品に **mgmt0** というラベルが付いているもの) とネットワークをつなぎます。これは管理者が使用します。

ヒント: 実機のラベルの画像は、http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/ism/v1r0m0/topic/com.ibm.ism.doc/qs00000_.html を参照してください。

- c. イーサネット・ケーブルで別のポート (本製品に **eth0** というラベルが付いているもの) とネットワークをつなぎます。これはメッセージング・クライアントが使用します。

注: 本ガイドの残りの部分は、**mgmt0** と **eth0** ラベルのポートを使用していることが前提となります。

- d. モニターの VGA ケーブルを VGA ポートにつなぎ、キーボードの USB ケーブルを空いているいずれかの USB ポートに接続します。
- e. 本製品の電源を入れ、起動するまで数分間お待ちください。
- f. ログインのプロンプトが表示されたら、デフォルト・ユーザー ID: **admin** を入力します。
- g. パスワード・プロンプトで、デフォルト・パスワード : **admin** を入力します。

3 ステップ 3: ネットワークの初期構成



1. セットアップ・ウィザードを完了させます。
 - a. 構成するインターフェースを選択します。デフォルトのインターフェースは、**mgt0** です。
 - b. DHCP を使用するかどうかを選択します。「yes」または「no」と入力してください。省略形は使用できません。
 - 1) DHCP の使用を選択した場合は、この手順のステップ 2 に進んでください。
 - 2) インターフェースの IP アドレスをクラスレス・ドメイン間ルーティング (CIDR) 形式で入力します。インストール前のチェックリストの項目 1 で取得した情報を参照してください。
 - 3) インターフェース用のゲートウェイを入力してください。インストール前のチェックリストの項目 2 で取得した情報を参照してください。
 - 4) Enter キーを押して設定を確定します。

注: 設定の間違いがあった場合、コマンド・プロンプトで以下を入力して、必要な修正を行ってください: `edit ethernet-interface mgt0`

2. サポートされているブラウザを開き、次の URL を入力して IBM MessageSight Web UI に接続します:

`https://IPAddress:9087`

補足:

IPAddress

ステップ 1b2 で設定したイーサネット・インターフェースの IP アドレス、または DHCP アドレスを指定します。

注: DHCP を介して獲得された IP アドレスを検証するには、コマンド `status netif mgt0` を入力します。IP アドレスが `inet addr` フィールドに表示されます。

3. ログイン・プロンプトで、デフォルトのユーザー ID とパスワード (ステップ 2f と 2g の `admin/admin`) を入力し、「**ログイン (Log in)**」をクリックします。使用許諾契約書のページが表示されます。
4. 確認したいライセンス、通知、保証の情報をクリックします。ソフトウェア・ライセンス情報を読むのに使用する言語を選択します。
5. 製品を使用する場合は、「**同意する (I Agree)**」をクリックします。IBM MessageSight Web UI ウィンドウの「**ファースト・ステップ (First Steps)**」タブが表示されます。

4 ステップ 4: 使用を始める



「**ファースト・ステップ (First Steps)**」タブで、デフォルト・パスワードを変更し、クライアント接続用のイーサネット・インターフェースを構成してください。

1. `admin` ユーザー ID のデフォルト・パスワードを変更し、「**保存 (Save)**」をクリックします。
2. クライアント接続用の初期イーサネット・インターフェースを構成します。
 - a. 「**インターフェース名 (Interface name)**」リスト・ボックスから **eth0** を選択します。
 - b. CIDR 表記で IP アドレス範囲を入力します。インストール前のチェックリストの項目 3 で取得した情報を参照してください。
 - c. CIDR サフィックスを付けないでデフォルト・ゲートウェイのアドレスを入力します。インストール前のチェックリストの項目 4 で取得した情報を参照してください。

注: ステップ 2b で指定した IP アドレス範囲の通信プロトコルは、ステップ 2c で使用したプロトコルと一致している必要があります。つまり、ステップ 2b で IPv4 を使用したら、ステップ 2c でも IPv4 を使用する必要があります。同様に、ステップ 2b で IPv6 を指定したら、ステップ 2c でも IPv6 を使用してください。

- d. 「**接続のテスト (Test connection)**」をクリックします。

注: このステップを実行できるのは、2a および 2b が完了している場合のみです。

3. 構成を保存するには、「**保存して閉じる (Save and Close)**」をクリックします。これで、「**ファースト・ステップ (First Steps)**」タブは終了です。「**ホーム (Home)**」タブが表示されます。

詳細情報



IBM MessageSight Information Center (<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/ism/v1r0m0/index.jsp>)を参照してください。

